

## 市民フォーラム 2 1 第 5 回環境部会 会議録（概要）

月日 平成 17 年 12 月 28 日（水）

時間 午前 9 時 30 分から

場所 第一庁舎 8 階 第三委員会室

### 事務局から資料 1 ~ 4 に基づき、基本構想 施策の大綱骨子案（環境分野）について説明

部会員

骨子をまとめる段階なので、ご意見があれば代案を出していただきたい。では、まず「まちづくりの方向性」と「施策の視点」に関してお願いしたい。事務局には、前回いただいた多くのご意見を踏まえて作っていただいた。反映させたところ、重なる部分が出てきているようだが、いかがか。

部会員

「市民、事業者及び行政」の間に家庭や地域を入れて「市民、家庭、地域、事業者及び行政」としてはまずいいのか。「市民」は主権者であり、あとは団体であるから、あまり細かいことを言わずに、切り口の要素であると考え、そのまま入れて、あらゆる人たちが取り組むんだということにしたらどうか。

部会員

施策の視点に新たに追加した「家庭や地域における環境に対する取組の推進」は環境教育や環境学習に関する取組を念頭においたもののような気がするので、従来からある「市民、事業者及び行政が一体となった環境に対する取組の推進」は具体的な環境に対する取組であるとする、色分けする必要がある。

部会員

そうすると、環境教育ということをはっきり書いたほうがいいのではないか。

部会員

そういうことである。

部会員

施策の視点の 2 番目は市民、事業者、行政がどのように協働していくのか、協働体制の充実というような視点であると認識していた。4 番目はこれからの具体的な事務事業や施策を行っていく上での、実際の過程や行動のことを掲げたものであり、重要な部分であると思うので、2 番目と 4 番目は大切な柱である。

部会員

そうすると、それぞれ後段にある「環境に対する取組の推進」という部分が同じなので、明確に違いを表現したらいいのではないか。

部会員

例えば 2 番目は「協働体制」とし、4 番目はそのままとしたらどうか。

部会員

4 番目は確かにわかりにくいですが、どちらかというと 4 番目は 1 番目の「市民の環境に対する

意識の高揚」に近い気がするので、適当な言葉は見当たらないが、一緒にするのであれば、1番目と4番目でないか。1番目の「市民の環境に対する意識の高揚」だけではわかりにくかったので、追加したらこういう問題が出てきたのではないか。

部会員

確かに新たに追加した4番目の「施策の視点」は1番目の「市民の環境に対する意識の高揚」に含めようとするれば含められるかもしれないが、4番目の視点は今後、長野市らしい施策を考えていく上で長野版エコ・キッズ等を実行しようとした時に、我々に突きつけられた大切な視点であるように感じる。

部会員

1番目は環境教育や環境学習によって「市民の環境に対する意識の高揚」を図る部分であって、4番目は家庭や地域での取組と捉えていた。1番目と4番目を一緒にすると、行政の施策の部分が見えにくくなるのかなと思うが。

部会員

この計画の主体は行政であるので、わざわざ行政と記載しなくても、むしろ市民、事業者、家庭、地域がどう動いてもらうかが大事ということでないか。

部会員

2番目と4番目をまとめるという話があったので、まとめるのであれば、1番目と4番目であると思った。個別にできるのであれば現状のままが良いが、「環境に対する取組の推進」という部分は使い分けるべき。

部会員

4番目の「家庭や地域における環境に対する取組の推進」に環境教育・環境学習と意識の高揚が含まれるので、まとめるとなると難しくなる。

部会員

2番目を「市民、事業者及び行政が一体となった協働体制の推進」や「市民、事業者及び行政の協働体制の推進」としたら、言葉での混乱は避けられる。

専門部会員

長野市では市民、事業者及び行政のパートナーシップというのは、特に環境分野においてこれがなければ、ごみ問題ひとつ解決できないので、大前提と考えている。「まちづくりの方向性」と「施策の視点」にパートナーシップが掲げられているが、そもそも「まちづくりの方向性」はどのような存在なのか。

事務局

「まちづくりの方向性」は環境分野において、どのようなまちを目指していくのか示したものであり、「施策の視点」については生活環境や景観形成を含めた環境分野における、横に貫く視点である。

専門部会員

「施策の視点」の4つの順番を「豊かな自然と調和し、共生するまちづくり」、「市民の環境に対する意識の高揚」、「市民、事業者及び行政が一体となった環境に対する取組の推進」、「家庭や地域における環境に対する取組の推進」の順にしたらすっきりする。順番も含めて議論したらどうか。

専門部会員

「まちづくりの方向性」に「注目されている中において」とあるが、環境問題や環境負荷の低減は何年も前から注目されていることであり、別な言葉にすべきでないか。

部会員

「まちづくりの方向性」は文章が長いので、どこかで区切ったらどうか。「注目」という言葉は「実施」にしてはどうか。「パートナーシップ」は別な言葉にしたほうが良いのではないか。

部会員

「注目」どころではなく、待ったなしの状況であることに異論はないと思う。「パートナーシップ」に関しては、環境パートナーシップ会議の活動もあるし、使われている言葉なのでこのままで良い。

部会員

資料4には「地球規模での環境問題や環境への負荷の低減が注目されている中において」という部分がないが、すんなり理解できるし、長すぎるというのであれば、あえて前段を記載しなくても良いのではないか。

専門部会員

温暖化防止については義務付けられている段階であり、行政としても具体策を実施するところでの計画策定なので、「注目」を「義務化されている」に変えたらどうか。文章の中に主語がないので、「市民、事業者及び行政のパートナーシップによる長野らしいまちを目指す」としたらどうか。

行政としては、温暖化防止対策が求められているという背景が必要に感じる。

部会員

丁寧に作られているので、「施策の視点」は「豊かな自然と調和し、共生するまちづくり」のひとつだけで言い尽くせるように感じる。ただ、ひとつ抜けているのは「学ぶ」という視点であり、豊かな自然環境を「学び」、自然環境を生かしたまちづくりをしていく必要があるのではないか。

部会員

「施策の視点」は今後、施策を考えていく上で、ひとつの指標になると思うので、このくらい書いておかないと展開しにくいように思う。

部会員

議論が膨らんできているが、事務局としては部会員の合意を得たほうが良いか。

事務局

「環境への負荷の低減が義務化されている中において、市民、事業者及び行政のパートナーシップにより、豊かな自然環境を保全し、限りある資源が循環する、環境に調和した長野らしいまちを目指す」としたい。

部会員

大前提の温暖化問題等は外すべきでなく、「地球温暖化問題等により環境への負荷の低減が義務化されている中において、市民」と続けたらどうか。

部会員

「まちづくりの方向性」は「豊かな自然環境を保全する」とか「限りある資源が循環する」

という方向性をはっきり表現していくべきところであると思う。「市民、事業者及び行政のパートナーシップ」という手段で「豊かな自然環境を保全し、限りある資源が循環する」という方向性をもう少し出すべきであり、何かぼやけた感じがするので、1行目は要らないと感じた。

部会員

対立する意見は多くなさそうであり、ニュアンスの違いのように感じられるので、議論はこのくらいとし、大きなところを外さずに事務局側でまとめてほしい。

部会員

「まちづくりの方向性」の1行目が、枕詞のようだから良くない。環境負荷の低減を強力に進めるということを書いてしまえば、方向性としてはっきりするのではないか。

部会員

この部分は他の部会とのバランスもあるので、そのへんを考慮いただいて、事務局で考えてほしい。「1 豊かな自然環境の保全と創造」の部分についてご意見をいただきたい。無いようなので、「2 資源が循環する環境共生都市の実現」ではどうか。

部会員

「3 安全で快適な生活環境の形成」から「2 資源が循環する環境共生都市の実現」へ移した「廃棄物処理施設の整備」については、資源循環はもちろんであるが、特定の利害関係者に配慮しなければいけない部分でもあるので、「2 資源が循環する環境共生都市の実現」と「3 安全で快適な生活環境の形成」の両方に掲げるべきでないか。

専門部会員

北澤部会員の意見に賛成である。

部会員

「基本計画に向けた要素」の中の順番を上の内容に沿うように変更すべき。

専門部会員

行政では「新エネルギー」の中に「自然エネルギー」を含めた意味合いで使っているの、自然エネルギーを削除したらどうか。

部会員

読んでいて何も疑問に感じなかった。

部会員

用語からすれば新エネルギーだが、一般市民が読むのであれば自然エネルギーのほうが良い。

部会員

「2 資源が循環する環境共生都市の実現」はこのへんにして、「3 安全で快適な生活環境の形成」でご意見をお願いしたいが、北澤部会員から提案のあった「廃棄物処理施設の整備」については、同じ言葉を3に入れるとすると、3のタイトルに沿うようなものにしなければいけないと思うが、いかがか。

部会員

「周辺環境に配慮した廃棄物処理施設の整備」にしてはどうか。

部会員

他になければ、「4 景観の形成」についてお願いしたい。無いようなので、全体を通じてご意見あるか。

部会員

教育分野に環境教育や環境学習の記述が無いようだが、整合性を図る必要はないのか。産業分野に化石燃料使用抑制の関係で温暖化防止に関する取組を載せるべきでないか。

事務局

環境教育・環境学習については、今後、教育部会に投げかけるなり、審議会で提案していきたいと考えている。化石燃料の使用抑制については、都市整備部会で公共交通機関の充実を掲げているのご理解いただきたい。

部会員

ひとまず、環境分野についてはこの程度にしたい。

事務局

議論をまとめ、修正したので確認をお願いしたい。「まちづくりの方向性」は「環境への負荷の低減の義務化等、地球規模での環境問題への取組が求められている中において、市民、事業者及び行政のパートナーシップにより、豊かな自然環境を保全し、限りある資源が循環する、環境に調和した長野らしいまちを目指す。」とし、「施策の視点」は順番と内容を一部修正し、1番目に「豊かな自然と調和し、共生するまちづくり」2番目に「市民の環境に対する意識の高揚」3番目に「市民、事業者及び行政が一体となった協働体制の推進」4番目に「家庭や地域における環境に対する取組の推進」としたい。

また、「2 資源が循環する環境共生都市の実現」の中では、自然エネルギーを削除するとともに、基本計画に向けた要素の中では「資源循環に配慮した廃棄物処理施設の整備」と修正したい。

最後に「3 安全で快適な生活環境の形成」では、基本計画に向けた要素の中に「周辺環境に配慮した廃棄物処理施設の整備」を追加したい。

専門部会員

「3 安全で快適な生活環境の形成」の基本計画に向けた要素に「適正な廃棄物の処理の推進」と「廃棄物処理施設の整備」があり、意味合いが重なるので、「周辺環境に配慮した適正な廃棄物の処理の推進」としてはどうか。

部会員

この案で皆さんのご了解をお願いしたい。

事務局から資料5～6に基づき、行政経営の方針について説明

部会員

ここの部分で何かご意見はないか。

部会員

「PFI事業」や「ICT社会」のような言葉は一般市民にはわかりにくいので、なんとかしてほしい。

## 事務局

素案にする段階で、注釈をつけたいと考えている。

## 部会員

冒頭の事務局の説明において、斎場を福祉分野か環境部会でというような話があったが、資料4の体系を見る限り、どの分野にも入れられないように思う。つまり、市民生活のクオリティというか、本質の部分がこの計画には抜けているような気がする。